



© AP Photos

クリーンな開発と気候に関する アジア太平洋パートナーシップ

オーストラリア・中国・インド



日本・韓国・アメリカ合衆国

「この新しい結果志向型のパートナーシップにより、各国がクリーンでより効率的なエネルギー技術を開発し、その普及を加速することが可能になり、貧困を緩和し経済開発を促進する形で、各国の汚染削減、エネルギー安全保障、気候変動の問題に対応できるようになるだろう」
(ジョージ・W・ブッシュ大統領)

米国は、ほかの国々と協力することで、経済とエネルギーの安全保障の向上、貧困緩和、人間の健康の増進、有害な大気汚染の削減、温室効果ガス排出量の増加の抑制といった相互に関連する目的の達成に向け、大きな進展が得られると考える。そのために米国は、アジア太平洋地域の5カ国とともに、クリーンな開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップを発足させた。本パートナーシップの参加国は、世界人口のおよそ半分、および世界の経済とエネルギー消費量の半分以上を占めている。

発足から実施まで

アジア太平洋パートナーシップは、2006年1月にシドニーで開かれた閣僚会議において発足した。パートナー諸国は、各国経済における主要なエネルギー集約産業を対象とする8つの官民タスクフォースを通じ、成果を上げたパートナーシップの手法を積み上げ・改善することを目的とする、複数産業にまたがる活動計画に合意した。2006年4月にカリフォルニア州バークレーでタスクフォースが会合を開き、産業別の行動計画の策定を開始した。パートナー諸国は、10月13日に韓国の済州島において、およそ100件の個別プロジェクトを含む計画を承認した。

タスクフォースの行動計画は、具体的な活動の実施に重点を置いている。これらの計画は、すべてのパートナー諸国で、クリーンで革新的な技術の普及と移転、エネルギー効率性、ベストプラクティス（最良事例）を促進するものである。次に示すのは、パートナー諸国によって承認された活動例である。

- 二酸化炭素（CO₂）の地中貯留の機会を評価し、貯留候補地を特定する。これによって大気中から何百万トンものCO₂を除去できる可能性がある。

- 農村地域でその地の燃料源を利用した、特注の電力ソリューション

アジア太平洋パートナーシップのタスクフォース

1. アルミニウム
2. 建物と電気機器
3. セメント
4. クリーンな化石エネルギー
5. 石炭鉱業
6. 発電および送電
7. 再生可能エネルギーと分散型電源
8. 鉄鋼

の提供を支援する。ガス化したバイオマスを燃料とするエンジンによって、十分な、あるいは信頼性が高い電力を持たない数百万人の農村住民の一部に電力を供給することができる。

- 発電の効率と環境パフォーマンスを向上させるために、ベストプラクティスと技術を共有する。簡単な改良によって効率を1.5%以上高め、インドのCO₂排出量を年間1000万トン以上削減することが可能である。

- 鉄鋼生産施設向けに、省エネを実現する方法とクリーン技術の選択肢を特定する。

- 非常に強力な温室効果ガスのペルフルオロカーボンを削減すべく努力する。これによって、中国では、CO₂換算で年間1500～2000万トンに相当する量のペルフルオロカーボンを削減できる。これは中規模の石炭火力発電所20基分に相当する。

- セメント生産で発生するCO₂の濃度の低下を促すような方策を特定し、よりクリーンな生産技術を普及させる。

- 最小限のコストで、二酸化硫黄排出量を20～25%削減でき、公衆衛生の向上と酸性雨の低減を可能にする洗炭方法を共有する。

- 電気機器、事務用および消費者向け電子機器、照明などの電力需要を抑制することにより、建物のエネルギー消費量の削減を図る。既存の建物における費用対効果の高い効率性の向上によって、エネルギー消費を10～15%削減することが可能である。

米国の拠出金

米国政府は、本パートナーシップの活動支援資金として、5200万ドルを2007年度予算教書に盛り込んだ。